

令和元年度 第5回 佐治地域振興会議 日程

日 時：令和元年10月25日（金）18：30～
場 所：佐治町総合支所 2階大会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

(1) 鳥取市生活交通創生ビジョン策定に係る意見交換について

(2) さじアストロパーク今後の在り方について

(3) その他

*次回 月 日（ ） 時～ 於：

4. 閉 会

佐治地域振興会議委員名簿

(任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日)

		氏名	区分	備考
会長	継	小谷 繁喜	1号	佐治町自治連合会会長
副会長	継	岸田 みち代	2号	千代南中学校保護者会会員
	継	田中 早雄	1号	佐治町まちづくり協議会副会長
	継	岡村 裕司	2号	因州和紙同業会会員
	継	栗谷 幹雄	2号	JA鳥取いなば佐治支店果実部長
	継	西尾 寛茂	2号	佐治町支部老人クラブ会長
	継	竹内 むつ子	2号	小規模多機能居宅事業運営委員
	継	杉本 淑子	3号	公募
	継	福安 道則	3号	公募
	新	下石 聡子	2号	佐治町連合婦人会会長
	新	無替 幸夫	3号	公募
	新	竹村 智行	3号	公募

* 選出区分

- 1号委員 自治会、まちづくり協議会等の役員の職にある人
- 2号委員 学識経験を有する人
- 3号委員 公募により選任された人

佐 治 町 総 合 支 所	
支所長	西尾 彰仁
副支所長兼地域振興課長	徳永 努
産業建設課長	福田 浩二
市民福祉課長	前田 由美
地域振興課課長補佐	青木 正弘

佐治地域 意見交換会

鳥取市生活交通創生ビジョン 策定に向けた意見交換会

令和元年10月
鳥取市交通政策課

- ◆ 鳥取市では、「鳥取市生活交通創生ビジョン」を本年度中に策定する予定です。

鳥取市生活交通創生ビジョンとは…

公共交通の現状を明らかにし、5年後・10年後を見据えた生活交通確保のための方向性を示すもの

- ◆ 本日の意見交換会は、

1. お住いの地域の公共交通の課題
2. 5年後や10年後を見越した将来における移動手段のあり方

についてご意見をうかがい、「鳥取市生活交通創生ビジョン」に反映することを目的として開催するものです。

1 地域の公共交通の状況

- 公共交通の運行状況やサービス水準
- 公共交通のカバー率 など

2 公共交通の課題【意見交換】

- 公共交通に関する動向
- 公共交通の利用者シミュレーション結果
- 地域における公共交通の課題
- 意見交換

3 将来における移動手段のあり方【意見交換】

- 移動手段確保策の例（参考）
- 意見交換

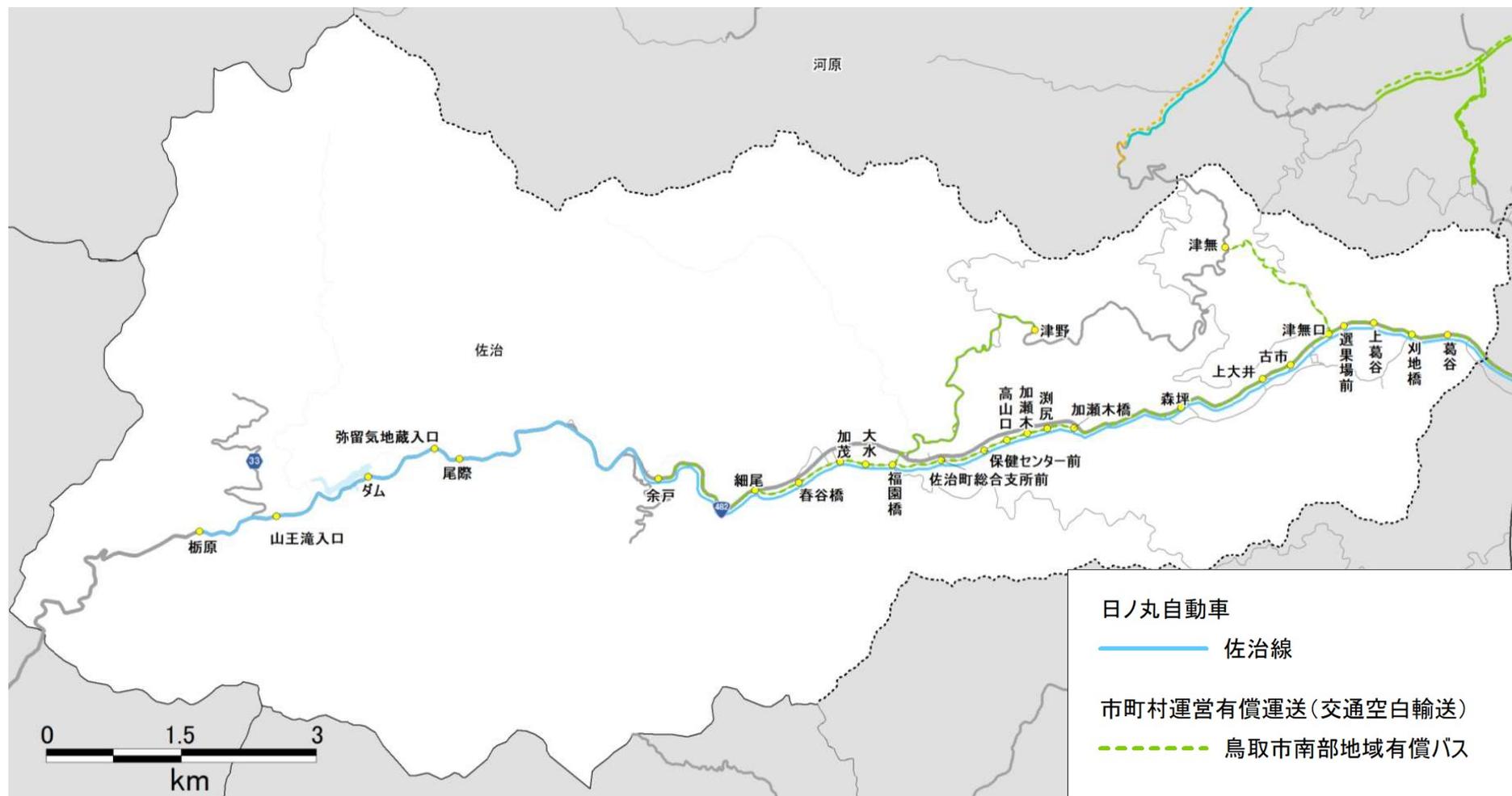
4 今後のスケジュール

1

地域の公共交通の状況

地域を運行しているバス路線

- 佐治地域では、日ノ丸自動車の佐治線と、市が運営している鳥取市南部地域有償バス（佐治線）が地域内の移動をカバーしています。



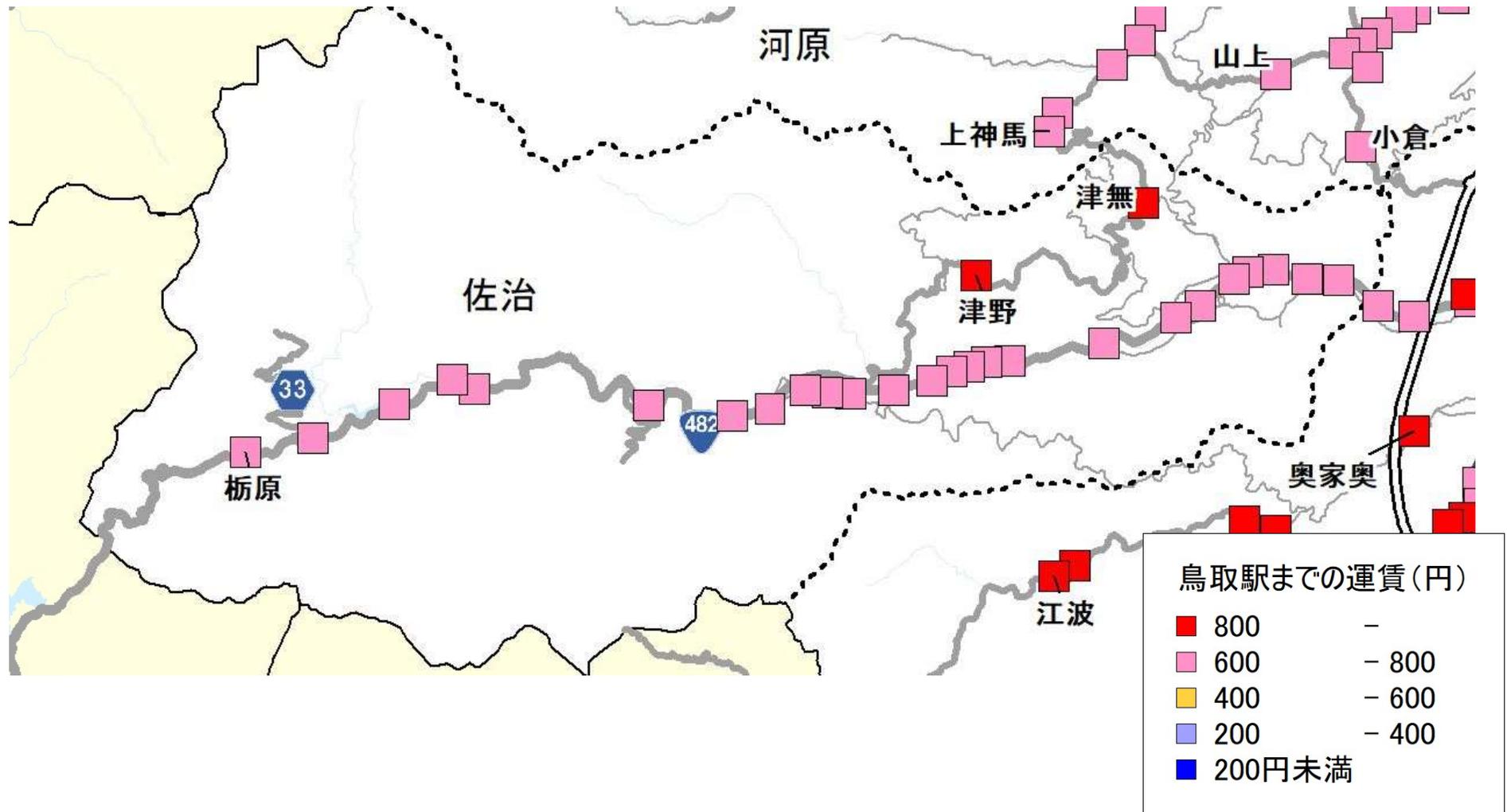
- 南部地域有償バスのみが運行している区間は、1日あたりの運行便数が5便以下と比較的少ない状況です。



※地域を運行している鉄道以外の公共交通の運行便数の計

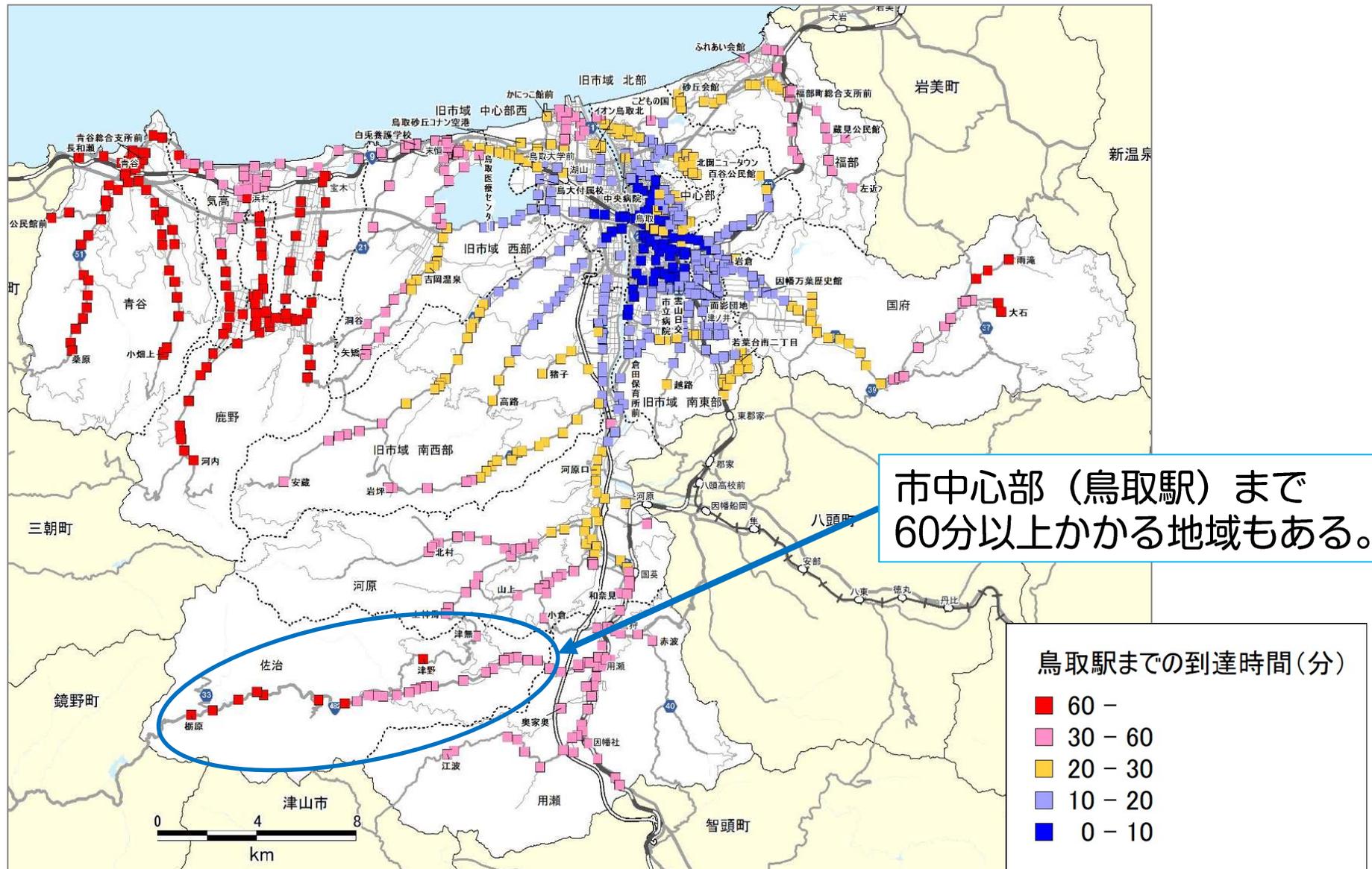
市中心部（鳥取駅）までの運賃

- 佐治線が運行している区間は600円～800円で市中心部まで行くことができますが、南部地域有償バスのみが運行している区間では市中心部まで800円以上の運賃がかかります。



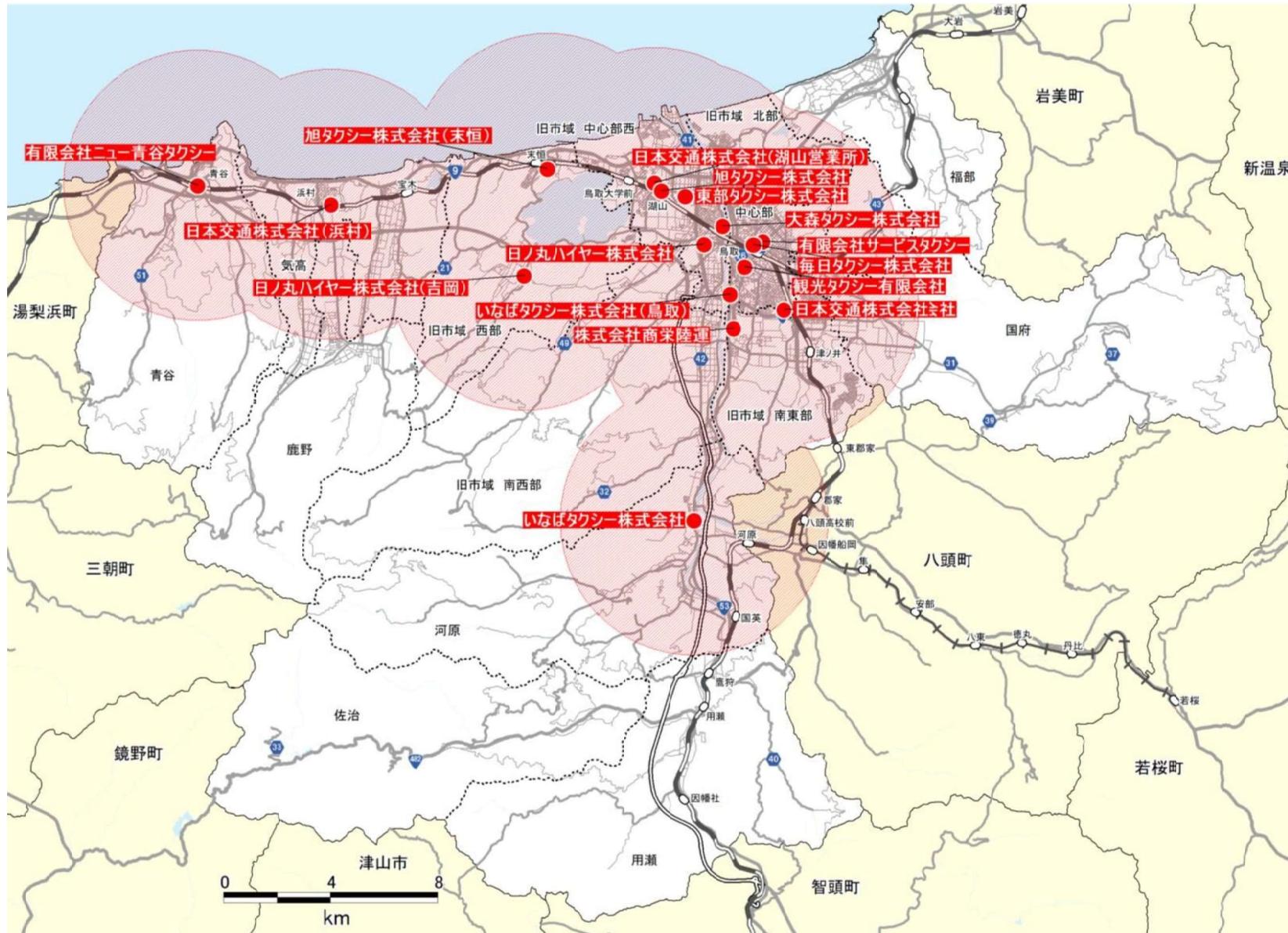
市中心部（鳥取駅）までの到達時間

- 鳥取駅までバスを使った際の到達時間を見ると、運行便数が少ない区間ほど到達時間が長くなっています。



タクシー事業所の立地状況

- 佐治地域は、タクシー事業所の5 km圏域外に該当しています。



2

公共交通の課題

公共交通の担い手（運転者）不足の深刻化

鳥取市では..

- ・ バスの運転者不足によるバス路線の縮小・廃止
- ・ タクシーの運転者不足による営業時間の短縮 等

鳥取市南部地域有償バスの運行

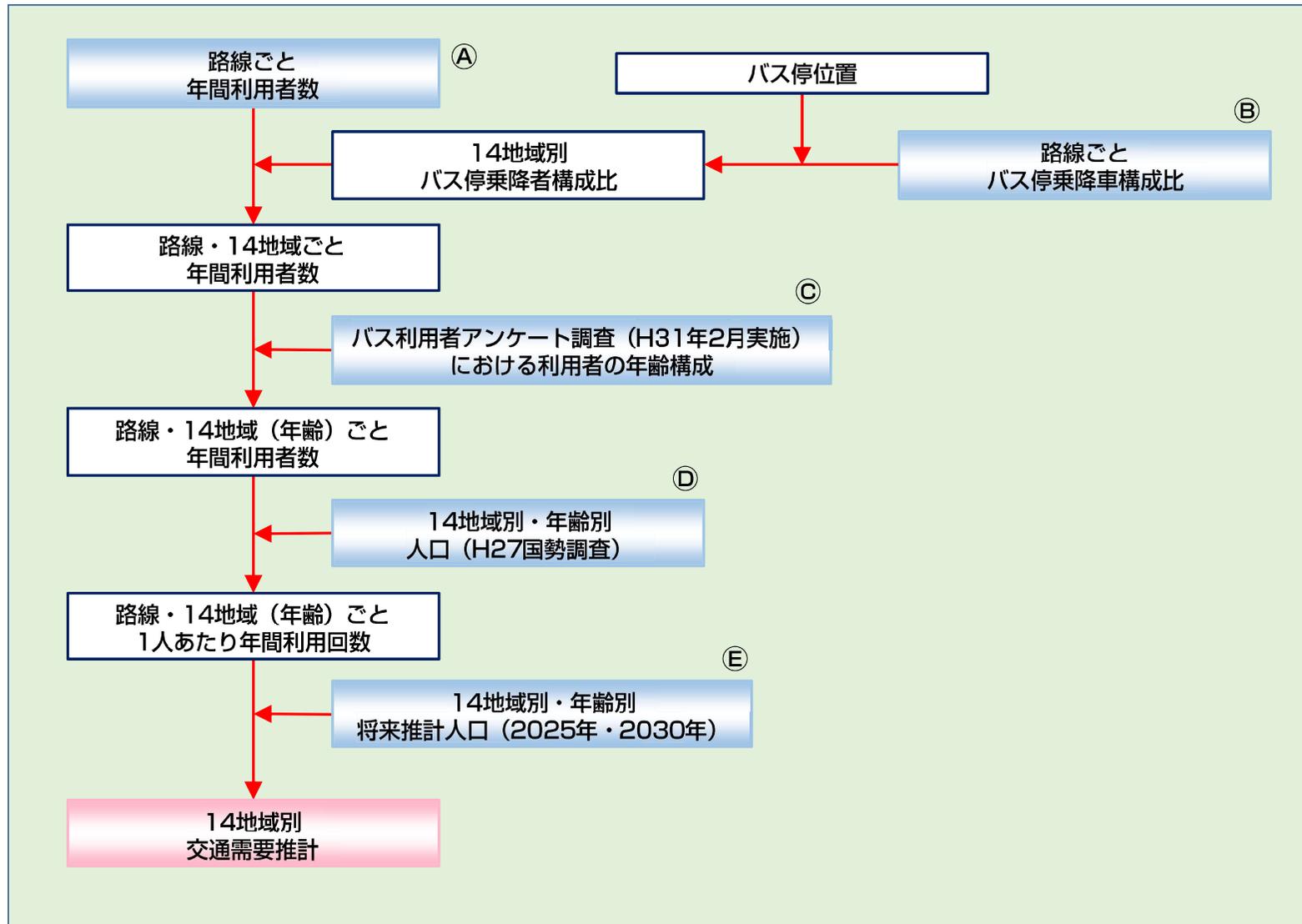
- ・ 昨年度まではタクシーによる乗合タクシーを運行していましたが、令和元年4月から、運行事業者の撤退により、市の直営である市町村運営有償運送の南部地域有償バスに移行しました。



現在も南部地域有償バスは、
運転者不足といった問題を抱えており、
今後の継続が困難な状況となっています。

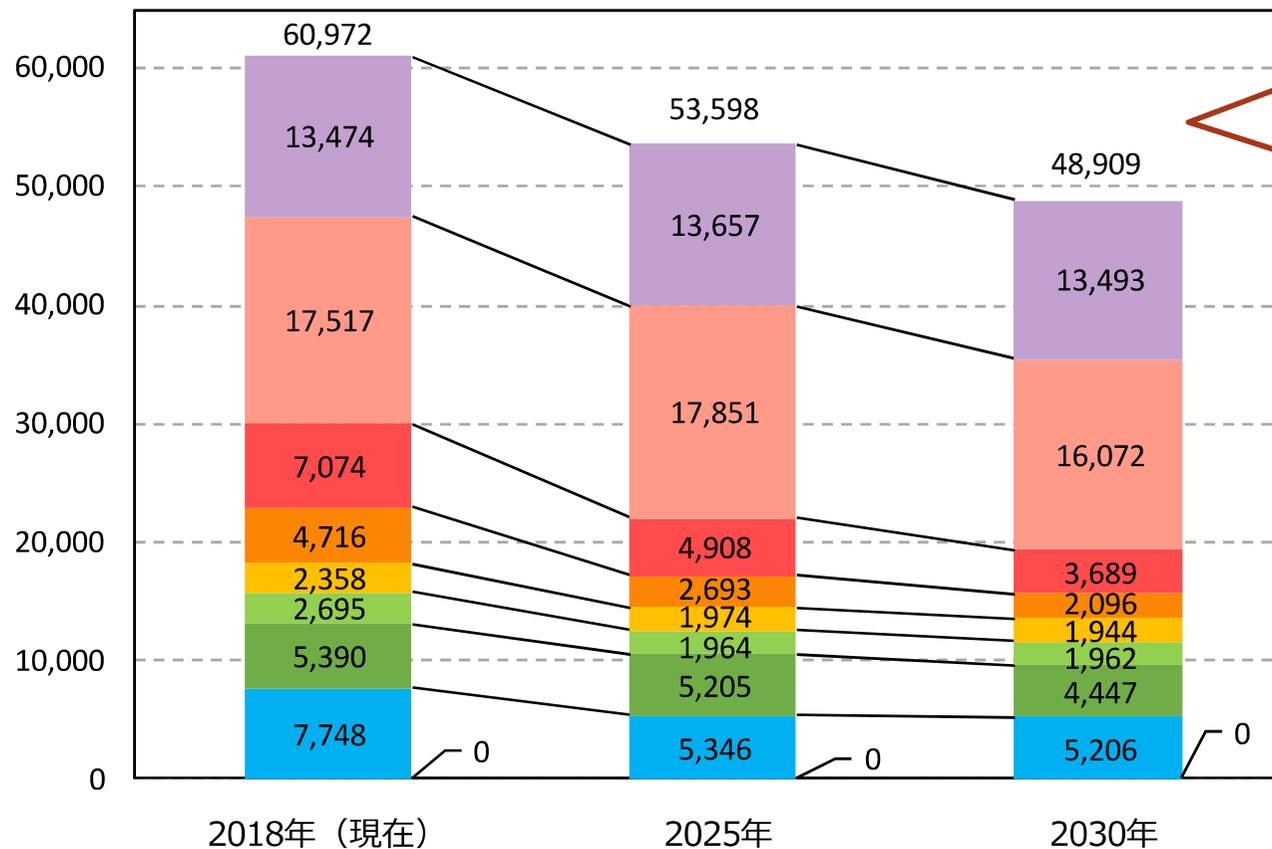
- 現状の地域別バス利用者数を基に、年代別の将来人口推計やバス利用者層を用いて5年後、10年後のバス利用者の推計を行いました。

※地域については、市内を14の地域で区分しています。



公共交通利用者のシミュレーション結果

- 年代別人口の増減率を基に推計した結果、佐治地域ではバスの利用者数は現状から減少が見込まれます。（ただし、人口推計に基づいた推計であるため、あくまで「見込み」として留意する必要があります）



人口減少によってバス利用者も大きく減少（特に10歳代の減少幅が大きい）



1

公共交通のカバー率は8割を超えているが、バス停から距離の離れた場所に暮らしている人が一定数いる。

2

市内中心部から距離が離れており、運行便数が少ない区間ほど所要時間が長く、運賃が高くなっている。

3

鳥取市南部地域有償バスは、市が運行している路線であるが、運転者不足の深刻化によって、今後の継続が困難な状況にある

4

5年後・10年後の公共交通利用者数の見込みは減少を示しており、今後は人口減少に伴い、公共交通利用者の減少が予想される。



5年後・10年後を見据えて地域における
移動手段の「あり方」を考えていく必要があります。

この説明でお示ししている課題のほかに、地域の移動に関して困りごとや不便を感じている点（課題や問題点として感じていること）があればお聞かせください。

例)

- ●●に行きたい人が多いが、バスでは行くことができない
- ●時頃に地域の病院へ行きたいが、ちょうどいい時間帯に便が運行していない

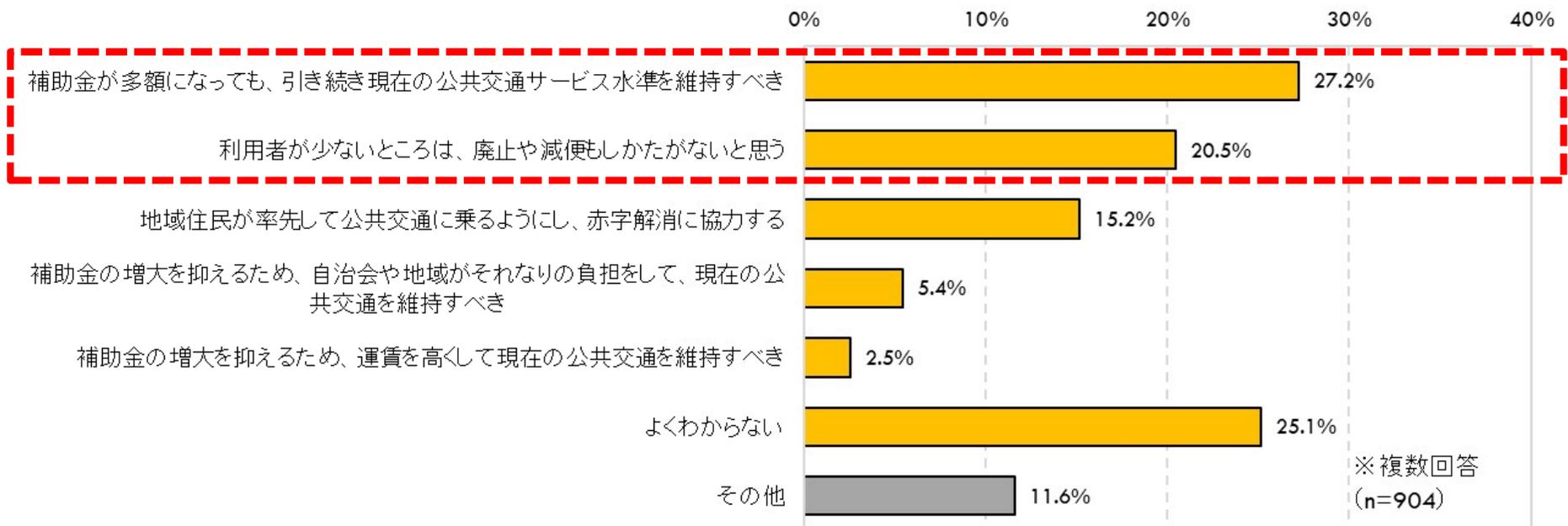
など

3

将来における移動手段のあり方

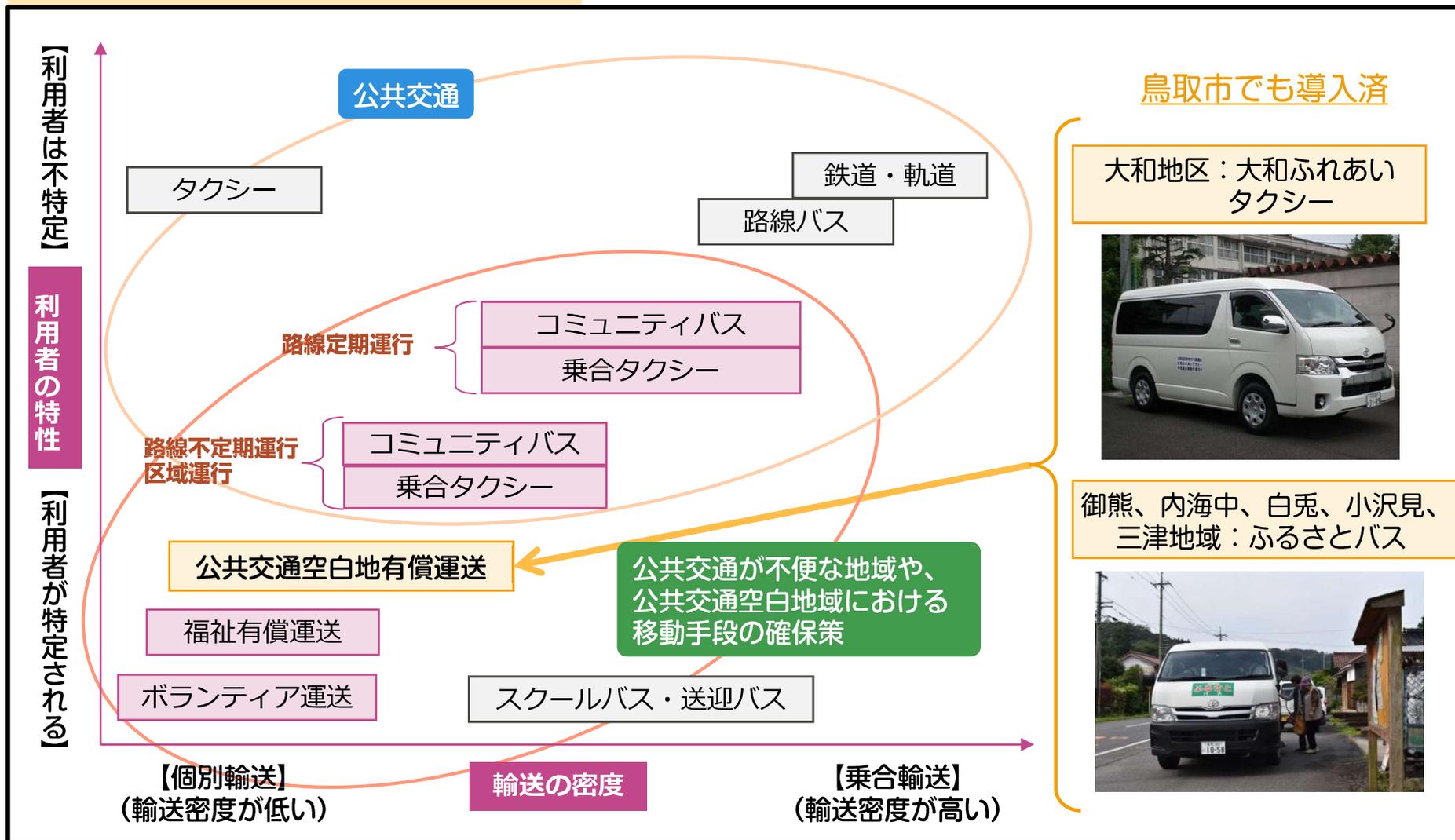
移動手段の維持・確保に対する市民の意識

- 将来の公共交通のあり方については、「補助金が多額になっても、現在のサービス水準を維持すべきである」が回答としては最も多くなっています。
- 一方で、「利用者が少ないところは、廃止や減便もしかたないと思う」と回答する人も一定数見られました。



移動手段の分類

利用者特性と輸送密度による分類



移動手段確保策の例	運行におけるメリット	運行する上での留意点
<p>公共交通空白地有償運送（住民が主体となった共助による輸送）</p>  <p>▲「大和ふれあいタクシー」 （鳥取市倭文大和地区）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民が主体となって運行計画を作ることができる。 ● 地域の実情に合わせてきめ細やかな運行ができる。 ● 地域が保有している自家用自動車を活用できる。 ● 利用者が運送の対価を支払うことで、持続性が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO法人や自治会といった運営の受け皿となる団体が必要である。 ● 運転者の確保、管理体制の整備や輸送実績報告は実施主体となる団体が行う必要がある。 ● 地域での運転者確保や採算性等が課題
<p>ボランティア運送（住民が主体となった互助による輸送）</p>  <p>▲自治会輸送「ふくろう号」 （島根県安来市広瀬町宇波地区）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民が主体となって運行計画を作ることができる。 ● 道路運送法に基づく許可や登録を必要としないため、手続き等の負担が少ない。 ● 地域活動等でも車両を自由に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料代、道路通行料及び駐車場代以外の運送の代価を支払うことができない。 ● 道路運送法によらない運行であるため、安全確保や利用者保護の面が十分ではない。 ● 地域での運転者確保や採算性等が課題

公共交通を取り巻く状況は厳しくなっており、ある日突然、地域のバス路線の廃止、タクシーの撤退という事態が起こってしまう可能性もあります。

このような状況の中で、地域の移動手段を将来に渡って維持していくために重要だと思ふ点や、お住まいの地域に適した移動手段、地域に必要なと思ふ移動手段についてご意見をお聞かせください。

※今は車を運転して移動されている方も自分のこととして、お考えください。

4

今後のスケジュール

【今回】意見交換会の開催（本年10月～11月）

生活交通創生ビジョン案（事業内容等）の検討

鳥取市生活交通会議での検討（本年12月頃）

パブリックコメント（来年1月～2月頃）

鳥取市生活交通創生ビジョン（案）をお示しして、
ビジョン案に対するご意見を伺います。

「鳥取市生活交通創生ビジョン」の策定（来年3月頃）

令和2年度よりビジョンに基づいた具体的な取組を実施

さじアストロパーク

今後の在り方について

鳥取市教育委員会

佐治町地域振興会議資料

令和元年10月25日

担当課

生涯学習・スポーツ課

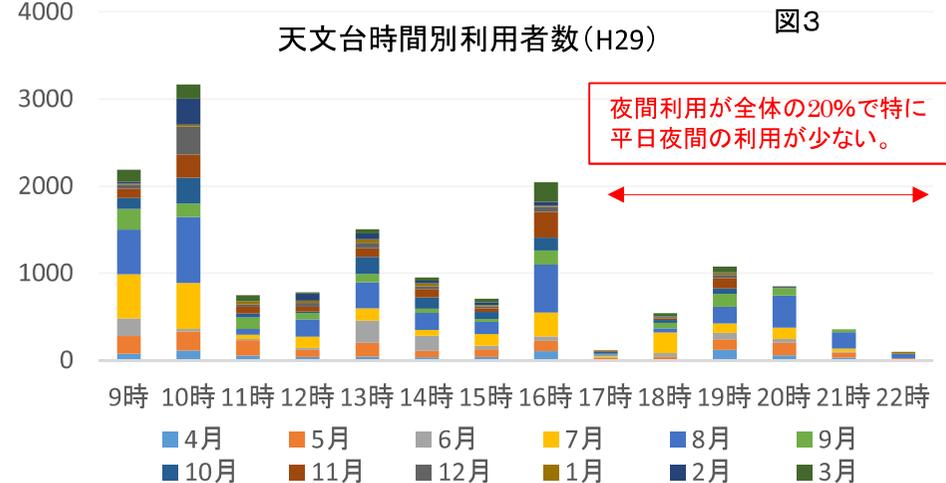
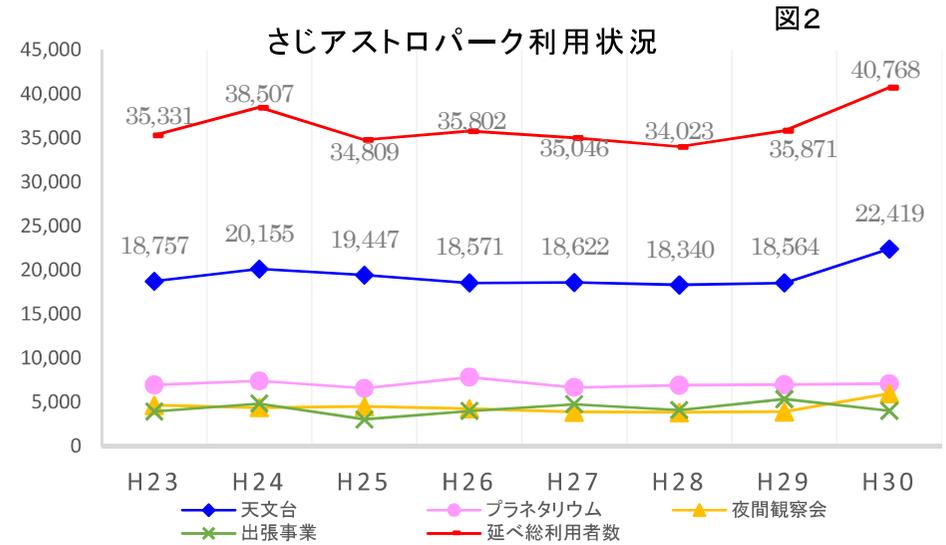
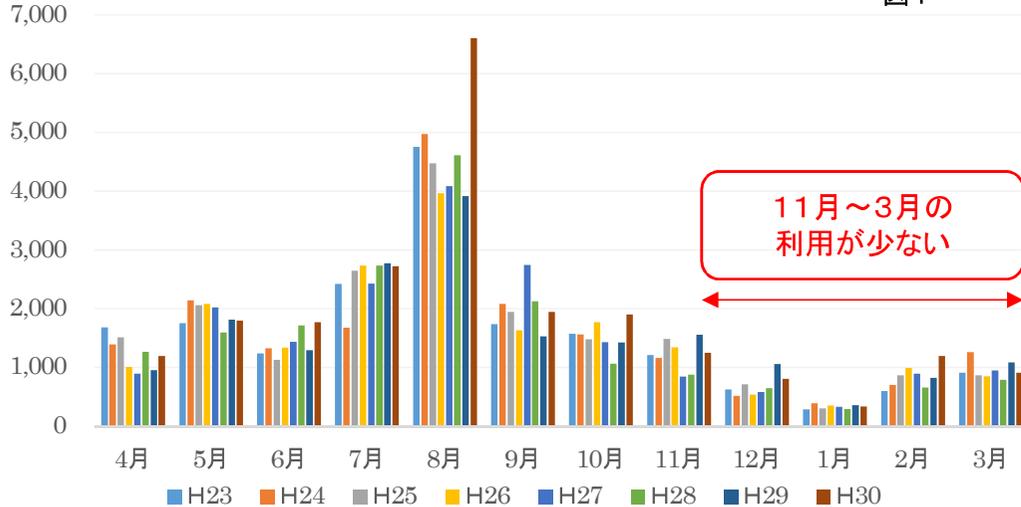
経過

- ・開館して25年が経過し、施設・設備の修繕や専門職員の雇用について検討する時期となった。
- ・昨年度に庁内あり方検討会を2回実施し、委員の意見をもとに教育委員会で方針を出すこととなった。
- ・施設の在り方を決定する方法として、10年をひと区切りとして さじアストロパークの **将来を見据えた10年間の動き**を想定し、中長期的な運営となるよう運営方法などを検討し、教育委員会で方針を決定する。

1. 現 状

- ・平成6年7月に開館し、今年で開館25周年を迎える。
- ・年間延べ総利用者数は35,000人～40,000人で推移している。
- ・年間運営経費(過去5年平均値)は、歳出額72,707千円、歳入額10,643千円である。(歳入のうち約7割がコテージ使用料)

天文台月別利用者数 図1



さじアストロパーク 年間運営経費 図4



2. 課 題

- ・例年冬場の利用者が少なく、年間として平日の夜間利用が少ない。
- ・専門職員の4人中3人が、6年以内に定年を迎える。
- ・施設及び設備の老朽化による修繕を実施しているが、25年経過しているためこの先も修繕や改修が想定される。
- ・業務や来館者対応に追われ出前講座のニーズに対応しきれていない。(繁忙期)
- ・園地内の植栽剪定や草刈りなどに手が回らず不十分になっている。

3. さじアストロパークの強み

自然環境

全国星空継続観察で日本一の夜空の暗さに幾度もなっており、「国内トップクラスの美しい星空」

設備環境

充実した設備が揃った国内・世界有数の公開天文台

- ・口径103センチ望遠鏡
- ・望遠鏡付きコテージ
- ・プラネタリウム など



地域振興

五しの拠点施設の1つ

(五し=星、和紙、石、梨、話)
外国人宿泊者が年々増加

研究成果

新小惑星の発見やJAXAと連携・協力

教育成果

- ・専門職員を配置
- ・出前講座や大学講義の実施などきめ細やかなサービス

当施設は、日本一の星空環境に加え、国内有数の大口径望遠鏡や全国でも珍しい望遠鏡付きコテージを備えている。さらに、専門員が常駐することで、他にはない魅力と教育力を兼ね備えた施設である。

地域総がかりで地域の将来を担う子どもたちを育成することが求められる現在において、「ふるさとを想い志を持つ子を育てる」上で重要な施設である。

また、地域振興やインバウンド対応の取り組みにおいてもその希少性は重要な意味を持ち、教育・観光両面で積極的な活用策の検討が必要。



4. 今後の方針

過去の利用状況等の分析をもとに、開館時間や職員の勤務体制を見直し、天文知識を有した**専門職員の継続雇用**により教育施設としての役割を強化していく。それにより、**学校や公民館などで行う出前講座の回数を増やす**ことができ、学習を通して**より多くの子どもたちに天文に興味を持ってもらい、さじアストロパークで学んでもらう。**

さらには、佐治町の地域振興の1つとして、地域との連携を強固にして利用者数の増加を目指し、佐治町の星空を多くの人に見てもらい「**美しい星空環境**」を未来へつなげていくための**拠点施設**として設備整備を検討しながら運営体制を構築する。

10年後の目標数値

●天文台来館者数目標

19,303人
(過去5年平均)



25,000人
(10年後)

●出前講座目標

件数 85件
(過去5年平均)



130件
(10年後)

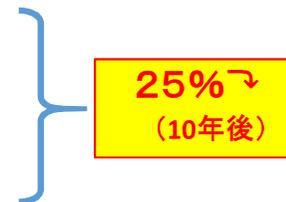
人数 4,496人
(過去5年平均)



7,000人
(10年後)

●運営経費削減目標

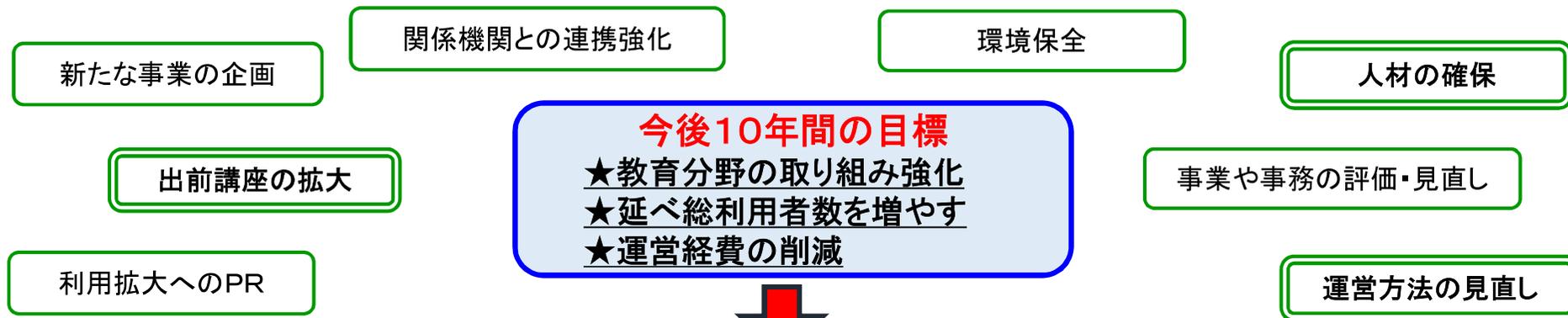
光熱水費
+
燃料費



25%
(10年後)

目標達成に必要なもの

目標達成に必要なもの



目指す将来像

★美しい佐治の星空を未来へつなげる★

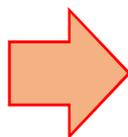
5. 10年間の目標に向けた新たな取り組み

職員の勤務時間はそのままに開館時間などの運営方法の見直しを行い、10年間の目標の達成にむけて『待つサービスから届けるサービス』の強化を図る。

○**休館日の変更** (現状)毎週月曜日、第3火曜日 ⇒ (見直し後)毎週月・火曜日<<11月～3月のみ>>

○**開館時間の変更**

	時期	開館時間
現状	4月～9月	9:00～22:00
	10月～3月	9:00～21:00



	時期	開館時間
見直し後	4月～10月	【火～木・日・祝】 10:00～17:15 【金・土】 10:00～22:00
	11月～3月	【水～金・日・祝】 10:00～17:15 【土】 10:00～21:00

見直しによる990時間(H29ベース)を届けるサービスの強化へ！！

※夜間開館がない日(休館日以外)は宿泊者及び事前予約のみ対応。

※GWや夏休み、各イベントなどの開館は教育委員会で承認後に開館する。

◎新たな取り組みによる効果

◆教育

- ・全てのニーズに対応できなかった出前講座が対応可能となり、実施回数増加による延べ総利用者数の拡大が見込まれる。
- ・学校で授業を行うアストロ教室は、冬季のみの対応となっていたが、その他の時期の対応が可能となる。
- ・多くの出前講座を行うことで、より多くの人に天文に興味を持ってもらい、さジアストロパークの利用者拡大につなげる。

◆職員

- ・開館時間の見直しでシフト勤務(夜間勤務)が減り、職員の負担軽減につながる。(働き方改革の推進)
- ・来館者の対応時間の縮小により、専門的事務の時間が確保でき、企画力の向上や情報発信につながる。

◆事業

- ・新たなイベントや事業を企画することで集客力アップにつなげる。
- ・事業を見直すことが可能となりニーズにあった事業の実施が可能となる。

◆運営

- ・日曜日や祝日の日中に多くの職員を配置することが可能となる。
- ・開館時間などの見直しによる運営コストの削減。(光熱水費など)

今後検討が必要なもの

- コテージの料金設定の検討
⇒閑散期の利用促進のため利用料金を検討する。
コスモスの館と調整が必要。(令和5年度までに検討)
- インバウンド利用者への対応
⇒施設表示や説明の多言語化、キャッシュレス化など
- 指定管理制度の検討
⇒コスモスの館を含めたさジアストロパーク全体で検討が必要。
- 人材の育成強化
⇒イベントなどに協力をしてもらえる人材の育成を強化していく。
- 設備の更新(プラネタリウム・コテージなど)
⇒設備を更新する際には、教育施設として必要かどうかを判断し、有利な財源を確保していかなければならない。



今後のスケジュール

- 令和元年10月・・・定例教育委員会報告
佐治町地域振興会議報告
- 令和元年11月・・・さジアストロパーク管理運営委員会
- 令和元年12月・・・規則改正、文教経済委員会報告
- 令和2年2月or3月・・・市報へ掲載
- 令和2年4月より運用開始